



南部町立南部中学校 学校だより 第17号

千一ム南部中

令和2年11月24日(火)
校長 望月和彦

「文化の秋」～音楽発表会～

11月14日(土)は第10回音楽発表会でした。開催にあたっては、事前に新型コロナの感染拡大状況を把握し、近隣の小中学校と情報を交換し合い、教育委員会の指導を受けながら、実施方法について検討を行いました。その結果、可能な限りの感染症対策を施して実施することにしました。歌う生徒たちと聞く生徒たちの距離の確保と飛沫防止シールドの設置、生徒や参観者同士の距離の確保、参観者を保護者1名のみに限らせていただいた上で学年ごとの入れ替え制、当該学年以外の保護者にはランチルームでライブ映像を視聴してもらうなどの対策です。直前には、マウスシールドは歌いにくいという生徒の声もありましたが、安全を第一に着用することも決めました。

そして迎えた当日。演奏の最初は2年生です。2Aは「心の瞳」、2Bは「友～旅立ちの時～」、学年合唱は「群青」を発表しました。トップバッターで緊張感も強かったと思いますが、A組、B組ともにとても素直できれいなハーモニーでした。学年合唱の「群青」では歌詞の意味をとらえながらパワーも加わり、2年生らしく歌えていたと思います。



<保護者の感想より>「1年生だった去年の合唱と比べると格段に上手になっていました。たった1年で、しかも練習期間が短い中で、ここまで上達できるものかと感心してしまいました。」「難しい曲だという説明を聞いていたので楽しみでした。男女とも、それぞれのパートの声がはっきりしていたので、本当にきれいに響き渡っていました。感動しました。良かったです。」



次は1年生です。1Aは「瑠璃色の地球」、1Bは「きらめく瞬間」、学年合唱は「怪獣のバラード」でした。ステージにたって合唱するのは中学校生活で初めてです。表情から緊張感があふれていましたが、A組もB組も歌い始めると今まで練習してきた成果を出そうと必死さが伝わってきました。「怪獣のバラード」では緊張感もだいぶほぐれたようで、楽しく歌っている姿が見られ、最後の「ヤーッ」でやりきったという気持ちが伝わってきました。

<保護者の感想より>「中学に入って初めての音楽発表会。コロナ対策で練習も大変だったと思いますが、皆しっかりとした歌声でとても良かったです。」「一生懸命に歌う姿が心に残っています…1年生全員が心を合わせて歌った怪獣のバラードはすばらしかったです。学級合唱もそれぞれのカラーが出ていて楽しませていただきました。」

そして、トリは3年生。3Aは「はじまり」、3Bは「鷗」、学年合唱は「生きる理由」。A組・B組ともにとても難しい曲にチャレンジしましたが、歌詞の意味をしっかりと捉え、互いの声を意識しながら見事なハーモニーを創っていました。学年合唱では、一人一人の声、顔の表情、身体全体から思いを伝えていました。1・2年生に良い目標を見せてくれました。

<保護者の感想より>「3Aは始めから涙がこぼれそうなくらい素晴らしかったです。何人もの声がびたっと1つになってとても感動しました。3Bではついに涙が



ぼろり。なんてきれいなソプラノでしょう。心に響きました。聖歌のように美しく何回も聴いていたいと思いました。さすが3年生！たくさんの感動をありがとうございました。」「さすが3年生！と言える素晴らしい合唱でした。ハーモニーにぶれがなく、一人一人が一生懸命歌っておりとても感動しました。この3年生はみんなで何かを創り上げることに、とても素晴らしいものを持っていると思いました。（輝城祭の時にも感じました）」

講師の芦澤真一先生からは、それぞれの学級合唱、学年合唱について、生徒たちの頑張りを讃え、励ますコメントをいただきました。その中の3年生に向けたコメントの一部を紹介します。「南部中学校の3年生、本当にすごいなー。細かいことをぬきにして、歌が心に伝わってくるんだよなー。あらためて合唱って必要なもので、大切なものなんだと感じさせてくれる歌でした。すてきな合唱をありがとう。」

保護者の方々からは、できる限りの感染症対策を施しながらなんとか実施できたこと、初めてランチルームでのライブ映像を視聴していただいたことについても、感謝の言葉をお寄せいただきました。

「文化の秋」様々な分野での活躍

総体、新人戦と本校生徒たちの活躍やがんばりは紹介してきましたが、様々な文化面でも本校の生徒たちはがんばっています。その一部を紹介します。

【甲斐清和高校主催「第7回中学生短歌大会」】

優秀賞 望月菫羽さん “ごめんねと この一言が口に出ず 今日も互いに ソーシャルディスタンス”

【南部署警察署管内防犯・交通に関する標語コンクール】

防犯の部 最優秀賞 武川洋斗さん “息子だよ 電話の向こうは 犯罪者 ”

交通の部 最優秀賞 望月 玲さん “「まあいっか」 軽い油断が 事故を呼ぶ ”

【山梨県立図書館主催「贈りたい本大賞」】（全校生徒・全教職員が応募）

大賞：樋口信也教諭 「散り椿」（葉室麟 著）の紹介

優秀賞：遠藤真歩さん 「私は私のままで生きることにした」（キム・スヒョン著）の紹介

学校賞：南部中学校

【全国納税貯蓄組合連合会主催 中学生の「税についての作文」コンクール】

全国納税貯蓄組合連合会会長賞 依田紗采さん 「税に寄り添う私たちの未来」

保幼小中合同引き渡し訓練

10月28日（水）、南海トラフで大規模地震が発生し、南部町内で震度5弱を記録したという想定で、引き渡し訓練を実施しました。今年度はより実践的にしようということで、町内の保育所や幼稚園にも呼びかけて、保幼小中の合同訓練という形で実施しました。午後3時から続々と保護者やご家族の方々が迎えに来てくださり、ウッドデッキで生徒たちを引き渡しました。事前に遅くなることを連絡していただいた保護者もあり、最終は午後5時半過ぎまでかかりましたが、全員無事終了しました。生徒の安全を第一に考え、家庭と学校との連携を大切に、有事に対する備えをしっかりとっておきたいと思います。



玄関前に素敵な菊

昨年度と同様に、ふれあい学級とあじさい学級の生徒たちが、見事な菊を育ててくれました。花の色や形も様々でとてもきれいです。玄関で生徒や教職員、来校者を楽しませてくれています。



「幸せボード」の取り組み

生徒会活動の柱の1は「個性を認め相手の立場に立って考えられる南部中生」です。生徒会事務局では具体的取組として「仲間の良いところを発信する活動」を行っています。毎日、玄関ホールボードには、全校生徒の誰かが行った素敵な行動が記されています。

